

新庁舎建設候補地 市長説明会 概要報告

1 開催日程・参加者数等（合計参加者 114 人）

日時	会場	参加者
11月11日（月）午後2時～3時	いずみプラザ	29人
11月12日（火）午後7時～8時10分	リオンホール	36人
11月18日（月）午後7時～8時10分	ひかりプラザ	10人
11月23日（土）午前10時～11時40分	市役所書庫棟会議室	39人

※1時間の予定で実施したが、質疑応答に応じて時間を延長

2 質疑応答の概要（○…質問 ●…意見・要望）

【いずみプラザ】

○移転に賛成。泉町所有地の40.4億円の取得費用は民間の実績かと思うが、実際に東京都から取得する費用の見込みはあるのか、また、現庁舎と新庁舎とのランニングコストの比較はあるのか。

→市長：40.4億円という金額は、隣接する消防署用地の東京都から購入した際の実績を参考にしており、一つの目安である。所有地の売却額の決定には現庁舎用地の活用方法も関わってくるので、それらも含めて金額の交渉をこれから重ねていく予定である。

→担当：ランニングコストについて、現在は庁舎機能が分散し、他施設に間借りしたりしていることから、具体的に算出するのが難しい。現庁舎は老朽化により光熱費等が非効率であり、新庁舎ではランニングコストを抑える必要があることから、省エネルギーで環境に優しいものを取り入れていきたいと考えている。

●移転に賛成。泉町所有地は交通の便がよいと思うが、小さくてもいいので郵便局を近くに設けてもらいたい。また、車での来庁に配慮して右折専用レーンを設けてもらいたい。

○移転について、市北部からは遠くなるが、防災面からは納得できる。現庁舎用地の活用について、これまでの懇談会で周辺住民からはどのような意見が出ているのか。また、「小規模公有地の発生による財源確保」とはどういうことか。

→市長：交通アクセスについては、市内全体から来やすいものをつくっていく必要があると思っている。恋ヶ窪駅周辺住民の声は、新庁舎の場

所が決まらない段階で移転後の話はできなかつたので、これから十分に話し合いながら進めていきたい。

小規模公有地については、現庁舎用地を活用した公共施設の再配置により、その公共施設の機能がほかの場所で補完できれば空くため、それを売却して財政負担を軽減していくことも選択肢の一つとして考えられるということである。

○計画が進み安心した。新庁舎は4、5階の想定のような機能を考えてその想定なのか。せつかつたので、たとえ費用が上がっても、他事例を研究して有効な機能を増やすことも考えられるのではないか。また、サウンディング型市場調査に参加した14社は市が選んだ事業者なのか。

→市長：導入する機能については、これから市民意見も聞きながら検討に入るところである。建物高さについては、地区計画で高さの制限があり、それに合わせて機能をつくっていかないといけない。

→担当：サウンディング型市場調査は、公募で実施している。市のホームページやPPP・PFIを集約している団体等を通じて募集をした。その中で14社が参加したことから、注目度が大変高かったと考えている。他事例についても情報収集をしていき、機能の追加だけでなく、60年、80年と長く使用できる柔軟性も考えていきたい。

○基本設計に市民意見をどのように吸い上げていく予定なのか。まちづくりの協議会のように、市民意見を吸い上げるための組織をつくってもらいたい。

→担当：市民参加について、これまでは建設候補地について意見を伺っており、12月の市議会で市役所の位置を変更する条例が可決されれば、基本計画策定の中で市民意見をお受けして、それを基本設計、実施設計につなげていく考えである。

→副市長：これまでも可能な限り市民のみなさんと一緒に考える機会をつくっており、当然、それぞれの場面でみなさんの声を聴いていきたいと考えている。市民がわくわくするような機能と防災機能の両立は難しく、その中でどのように市民意見を把握して何が提供できるかはこれからはもしっかり考えていきたい。

●国分寺市は緑のまちだと多くの人にわかるように、来庁者が最上階に上がれて富士山を見ることができるよう配慮をしてもらいたい。

【リオンホール】

○泉町所有地は河川の氾濫危険はないのか。また、現庁舎用地の土地の資産価値はいくらか。

→担当：市のハザードマップでもその危険はない。資産価値については、路線価から見積もる方法もあるが、真の価値は、買う相手がいて決まるもので一概に言うことは難しい。別の角度だが、サウンディング型市場調査に14社もの多くの事業者が参加したことから、民間事業者にとっての魅力度は高いのではないかと考えている。

○東京都が泉町所有地を売却する確約はあるのか。また、減額はあるのか。

→市長：東京都に要望をし、先日の小池都知事との懇談の際に東京都として売却する方針を決定したと返事をいただいた。減額についてはこれからの交渉になるが、跡地を公共施設に活用することで考慮していただけるのではと考えている。

○市長の説明は妥当と考える。そのうえで、西国分寺駅東口の開設に向けた責任分担について東京都と交渉することについて考えはあるか。

→市長：従来から多くの要望をいただいている。JRとの交渉は継続して行っており、東京都にも要望しているが、さらに要望を強めていきたいと考えている。

○移転表明ならば現庁舎用地の具体的な活用方法を併せて示すべきではないか。また、厳しい財政状況において、泉町所有地の取得費がかかることはどうなのか。

→市長：これまでは移転ありきになってしまうため、現庁舎用地の活用についての話し合いができていないので、これから早期に検討に取り組みたい。新庁舎の建設については、現在生じている大きなロスの解消にもつながるため、行政改革等も含め、財政にしっかりと規律を保ちつつ進めていきたい。泉町所有地への移転を決めたことは、防災を1番に重視していることから、防災機能の差が大きな理由である。

→担当：庁舎建設について、単純な比較は難しいが、現庁舎用地での建て替えは難易度が高く、新庁舎建設基本構想の想定事業費よりも膨らむ可能性が高い。また、公共施設の老朽化が進む中、公共施設を現地建替えた場合には工事中使用できなくなるなど非常に難しいが、泉町所有地を取得して空いた現庁舎用地を公共施設の再配置の種地にできるため、公共施設の更新という点では将来にわたり有効だと考える。

○泉町都有地の埋蔵文化財の発掘により工事に支障が出る可能性はどう考えているか。

→担当：現在、隣接する消防署用地で調査を行っているが、あまり重要なものは出てきていないと聞いている。土地の履歴としても鉄道学園の施設が建っていた。そうしたことから大きな支障はないと考えている。

○移転は賛成だが、厳しい財政状況から、現庁舎用地を売却して事業費に充てることは考えられないのか。また、活用するなら具体的なプランを示すべきである。

→副市長：現庁舎用地の活用については、民間事業者へのサウンディング型市場調査により色々な可能性が示されたが、当然ながら市議会や市民のご理解がなければ進められないので、これから市民意見を聞きながら進めていきたいと考えている。ただし、老朽化した公共施設のための種地として何等かの活用をすることは市の基本方針として考えている。

【ひかりプラザ】

○西国分寺駅東口を開設する必要があるのではないか。

→副市長：費用的にも市が単独で整備することは難しいので、都立多摩図書館等もできてきていることから、東京都等の関係団体と相談しながら、西国分寺駅東口開設に向けてJRと協議していきたい。

○防災では新庁舎を中心とした各地域の拠点が必要であり、その点で泉町都有地は最適だが、公共施設等総合管理計画ではその視点が不十分だと感じていたので、市民の意見を聞いて、新庁舎建設と併せて地域の拠点の活性化をしていくべきである。

→市長：これまでも地域の方々には公共施設を中心に地域防災を考えていただいており、さらに充実させていかなければならないと考えている。公共施設の再配置は、新庁舎を中心に、どのように種地を活かして地域の力を失わないような形で取り組めるのか、多くのご意見を聞きながら丁寧に進めていきたい。

●移転に賛成。現庁舎用地には恋ヶ窪図書館を移転強化して中央図書館とするのが良いと考える。また、科学のまちとして新庁舎の屋上に天文台の設置を検討してほしい。

- 新庁舎建設は賛成だが、移転は反対。現庁舎用地が接する新府中街道沿道を、新庁舎をコアにして発展させてもらいたい。泉町都有地には東京都に文化施設を整備してもらいたい。
- 財政健全化のため、現庁舎用地を売却すべきだと考える。
- 今までは違ったが、色々分かってきたので移転に賛成する。都有地購入費の減額にも影響することから、現庁舎用地の売却はせず、むしろ有効な活用方法を考えてもらいたい。基本構想の延床面積、事業費で必要な災害対応には足りるのか。
- 担当：延床面積等は他の自治体の事例を参考に想定したもので、災害対策本部としての機能も当然確保していく。建設費の見通しは難しいが、コスト意識をもって、必要な機能の確保など十分に取り組んでいきたい。
- 移転に賛成。一方で市の西地区、北地区には防災面で活用できる広場や公園が少ないので、公共施設の整備の面で考えていってもらいたい。

【市役所書庫棟会議室】

- 当初移転に反対だったが、今日の説明を聞いて考えが変わった。それは、現庁舎用地の活用について意見を取り入れてもらったと感じたからである。人が集まるような現庁舎用地の活用に向けて速やかに努力してもらいたい。
- 移転に反対。泉町都有地は府中街道しか大きな道路がない。また、崖が崩れないか心配であり、市の中心から偏ってしまう。
- 移転により金額的に得になるものはあるか。
- 担当：泉町都有地の購入にあたっては、現庁舎用地を公共のための目的で活用すると減額の可能性がある。一方で民間事業者の活用で市の負担を軽減してサービスを提供することも考えられ、市民意見を聞いて何が望ましいのか考えていきたい。
- 移転に賛成。隣接する武蔵国分寺公園も災害時に活用できるなど、泉町都有地のポテンシャルが高く最適である。
- 新庁舎の具体的な機能はまだ決まっていらないようだが、それについて市民はどこに意見を言えばいいのか。
- 担当：担当は政策経営課である。新庁舎の具体的な機能については、建設候補地が決まる前には具体的に検討できなかったため、建設候補地の決定後に市民の意見を聞く機会を設けていきたい。

- 成人式ができるような大きなホールを整備する予定はないのか。
- 市長：非常に費用がかかることでもあり，都知事との懇談では東京都で整備していただきたいと要望した。そうした要望を引き続きすることも含め，何らかの形がとれるよう検討していきたい。
- 史跡国分寺跡には団体もよく訪れているが，大型バスが停まれる駐車場がなく，新庁舎には大型バスが停まれるようにしてもらいたいが，いかがか。
- 副市長：新庁舎には執務室以外の機能も求められているところである。全体的な市民サービスに寄与する施設になることが大事だと考えており，これから具体的な市民意見を聞きながら検討していきたい。
- 移転表明に安心した。これから新庁舎の市民利用について市民が意見を言える場を設けてもらいたい。
- 副市長：これまでも丁寧に進めてきており，先ほど話したように，具体的にどのような機能を入れられるか，これから市民ワークショップ等の機会を設けていくので，ぜひ参加していただきたい。
- サウンディング型市場調査について，この再配置のイメージ図の内容はもう決まったものなのか。
- 担当：公共施設適正再配置計画では，地域ごとのグループを設定し，グループ内での再配置を基本とし，一方で地域を問わない施設を先駆的に取り組む施設として掲げている。市が抱えている課題として，そうした老朽化する公共施設の再配置について民間事業者を検討材料として示したものであり，決まったものではない。具体的なものは今後の現庁舎用地の活用を検討する中で考えていきたい。
- 新庁舎が移転する先の泉町都有地の周辺のまちづくりの検討はどうなっているのか。
- 副市長：泉町のまちづくりについては，昨年度からアンケート調査等を実施してきた。その結果等を整理しながら，住民を中心として協議を始めていきたい。西国分寺駅東口の開設については，関係機関と連携しながら，良い結果を得られるようにしたい。
- 公共施設再配置計画の市民懇談会が何回も開かれていたが，市長が参加していなかったので，今後の再配置の検討にあたっては市民の声を直接市長に聞いてもらいたい。
- 市長：できる限り参加したいが，全てに出ることは不可能であり，そのためにそれぞれの担当があり，私のところまで報告が届いている。公共施設の再配置はまだ決まっておらず，これから色々な形で市民の声を聴きながら進めていきたい。

- 公共施設が老朽化しており、防災面を重視するなら庁舎用地取得費を公民館等の公共施設のバリアフリー化や修繕に使うべきではないか。
- 市長：公共施設の老朽化について、利用に影響するものは今も対処しているが、毎年の修繕費も多く、抜本的な対策としての建替え等を一つ一つ順番に進めていかなければならない。
- 基金はどれくらいあって、事業費をどのように賄う計画か。
- 担当：庁舎建設資金積立基金は、当初の目標である43億円まで積み増している。建設費等は75%まで借金（起債）ができるため、基金と合わせて賄えると考えている。
- 副市長：先ほど市長が、財政規律が必要だと説明したのは、いわゆる借金と貯金と経常収支比率について、それぞれ余裕のある幅をどれくらいにしていくかということで、これを議会に示して、皆さんにご安心いただいたうえで進めていく必要があると考えている。
- 新庁舎の建設場所は年内に決定するのか。また、その後の現庁舎用地の活用についての具体的な市民参加の場はどのように予定しているか。
- 担当：12月の市議会第4回定例会に庁舎を泉町所有地に移転するための条例の上程を予定しており、これが議決されれば市の方向性として移転が決定する。その後の現庁舎用地の活用については、詳細は未定だが、泉町所有地の移転が決定した暁には順次動き出していく。
- 泉町所有地では埋蔵文化財の調査費用もかかり現庁舎用地での建て替えよりも高いのではないか。また、駅から遠くなりぶんバスも小さくてベビーカーを乗せにくいので、そうしたことも考えてもらいたい。
- 担当：現庁舎用地での新庁舎建設は、業務を行いながらの工事で難易度が高く、建設事業者からは1.2～1.4倍の建設費がかかるであろうとの見解が示されている。また、仮設庁舎は後に残らないため、その費用をどう捉えるかも様々な意見を伺っている。また、泉町所有地は取得費用がかかるが、現庁舎用地を公共施設の再配置に活用できる。新庁舎へのアクセスは非常に重要であり、併せて考えていきたい。
- 移転した場合、災害時にJR中央線の上に架かる橋が落ちたらどうするのか。また、現庁舎用地の活用は民間事業者の提案だけで、取り組む保証はあるのか。旧本庁舎の地下躯体の撤去もまた費用がかかるのになぜ当時残して埋めたのか。現庁舎用地の活用の可能性は色々あると思うが、それを行政だけで考えてしまうのではないか。
- 市長：これまでも説明しているとおり、現庁舎用地の活用については、庁舎の移転が決定すれば直ちに組みんでいきたい。具体的な活用については、色々な可能性が考えられる。また、橋が落ちれば困るのは、現

在地に庁舎があっても同じであり、場合によってヘリコプターを活用するとなれば、広い空き地の必要性が高まるので、むしろ泉町所有地が望ましいと考えられる。旧本庁舎の地下躯体は、当時の行政と議会との最終的な決定としては、費用がかかるためそのまま埋めたということである。

→副市長：旧本庁舎の地下躯体については、効率的な財政の観点から、当時は新庁舎の建替えが具体的に決まった段階で一緒に工事した方が、安全でかつ費用負担が少ないと判断したことが大きい。

→担当：現庁舎用地の活用は、当然市民の声を聞きながら進めていくので、行政が一方的に計画することはないということをご理解いただきたい。

○泉町所有地への移転は、市の地域防災計画と整合しているのか。また、過去の庁舎移転の際にも市の中心地といった理念があったと思うので、今回の移転でもそれを説明する必要があるのではないか。

→市長：ご質問に共通するのは、防災対策をどう考えるのかということだと思う。泉町所有地では、国分寺消防署と隣接し、万が一通信手段が途絶しても徒歩での連携も可能である。これまでの役場の移転も、そのときどきの必要性に応じて移転している。今回の移転は、まさに司令塔としての防災拠点の役割を果たせるのが泉町所有地であるという判断を踏まえてのことである。